



生きるを、ともに、つくる。

公益社団法人 日本看護協会

ウクライナ人道支援寄付のご報告

公益社団法人日本看護協会（会長：福井トシ子、会員 77 万人）は、2月24日に開始されたロシアのウクライナ軍事侵攻による人道危機に対し、国際看護師協会（ICN）が行う支援活動に賛同し、連携して支援に取り組んでいます。その一環として、国内での募金活動を3月中旬から約1カ月半にわたって実施いたしました。限られた期間であったにもかかわらず、4,066万7,128円という皆さまの大きな篤志が集まりました。趣旨にご賛同いただき、募金および周知にご協力下さった医療機関・教育機関などの看護職や一般市民の皆さま、47都道府県看護協会からの多大なご支援、お力添えに、深く感謝申し上げます。本会予算からの寄付額2,500万円を加えた計約6,600万円の寄付をICN人道基金に送金したことをご報告します（5月31日付送金。ただし、本会予算からの寄付、事態の緊急性に鑑み4月22日に別途送金済）。

日本からの寄付に対し、ICNのパメラ・シプリアーノ会長から、感謝の意が届いています。ロシア侵攻当初から今日まで、ウクライナの看護職たちは信じられないほどの強さと献身性を発揮し、地下室で生活しながら負傷した患者がいつ運ばれて来てもケアにあたるよう備えており、また、近隣国の看護職たちも戦禍を逃れて国境を越える人々へのケアにあたっています。シプリアーノ会長は「このたびの寄付は、そのような看護職たちが患者をケアするために必ず役立てる」とし、すでに、ICN人道基金への寄付金が、ウクライナ看護協会やモルドバ、スロバキア、ルーマニア、ポーランドなどの友好的な近隣諸国の看護協会を通じて、ウクライナの現場の看護職たちに分配されていることを確認しています。



ICNが行う#NursesforPeaceキャンペーンへの参加表明。福井会長（左）と木澤晃代常任理事（右）



本会原宿ビル正面玄関横のパネルに#NursesforPeaceキャンペーンのポスターを掲示

News Release

報道関係者各位

公益社団法人 日本看護協会 広報部
2022年6月6日

本会は、ICN の意見を全面的に支持し、ウクライナの人々および看護職の安全と保護のために、今後も世界の看護界と連帯することを表明します。この人道危機が直ちに解決され、平和な生活が取り戻されることを願い、今後もさまざまな形で支援を行ってまいります。

日本看護協会のウクライナへの支援活動については、本会 HP に掲載しています。

○本会 HP「国際情報」>「国際看護師協会 (ICN)」>「ウクライナへの支援活動」

<https://www.nurse.or.jp/nursing/international/icn/icn4ukr/index.html>



【問合先】日本看護協会 国際部 ☎ 03-5778-8559